

平成 30 年度

さくらんぼ 12月号

社会福祉法人 舞鶴市社会福祉協議会

舞鶴こども発達支援施設「さくらんぼ園」(Tel.64-5798・FAX62-9171)

「今年も残り少なくなりました。」

さくらんぼ園長 山口 正裕

秋から冬にかけて陸上競技、特にマラソン、駅伝などの長距離の大会がよく行われテレビ放送も多くされています。

番組の中では、自己との戦いが強い競技だけに、走っている選手の表情は、常に平然というのではなく、時として苦痛にゆがむ顔をしている時があります。

そんな時、沿道からの声援を受け、この励ましの声で『もう少し頑張ってみよう。』と、気持ちを切り替えている選手は多いと思います。

さて、声をかけることは、上の例では、励ましという意味がありましたが、別に、「啐啄同時（そったくどうじ）」に当たる、よりよい効果を生み出すことにもつながります。

「啐啄同時（そったくどうじ）」とは、師弟関係を表した禅の言葉です。

「啐（そつ）」とは、卵の中の雛が「もうすぐ生まれるよ。」と内側から殻をつつく音、「啄（たく）」とは、そんな卵の変化に気づいた親鳥が「ここから出なさい。」と外から殻をつつく音を表します。殻を破る者とそれを導く者、そんな両者の「啐（そつ）」と「啄（たく）」が少しもずれることなく同時に行われるというのが、師弟の理想であり、禅語の示すところです。

初めに書いた、マラソンや駅伝のことであれば、ポイント、ポイントで選手の状況に応じた声をかける、監督やコーチと走者の関係がそれになります。

ただ、すべてがより良い効果につながるとは限りません。

早くもない、遅くもない、その選手に合った「その時」を見逃さず、どこで、どんな時にきっかけを与えるかしっかり見通すことが大切になってきます。

このことは、監督やコーチ、いわゆる師に求められることでもあります。

スポーツの世界に限らず、導く者と成長する者の関係はどこにでも存在します。

親子関係もその一つです。

子どもをよりよく成長させるためには、早すぎず、遅すぎない親子のタイミング、つまり、子どもが「自分からやってみよう」としている時を見計らって、親がサポートするそのタイミングが大事になります。

子どもは一人ひとり違います。

その子のペースに合わせて親も子どもに関わる必要があります。

関わり方ひとつで、その子を伸ばすこともできるし、つぶしてしまふこともあります。

私たちは、焦らずに、穏やかに子どもを見守ることを心に留め、そして、「啐啄同時（そったくどうじ）」のタイミングが来たら、機会を逃さず、温かく声をかけるようしていきましょう。



